

目指す学校像	子ども・保護者・地域の期待に応え、信頼される学校
--------	--------------------------

重点目標	1 「真の学力」の育成をめざす教育の充実 2 児童が安全で安心して学べる教育環境の整備 3 保護者、地域の願いを踏まえた学校運営と積極的な情報発信 4 教職員研修の実施
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価		年度評価		学校運営協議会による評価				
年度		年度		実施日令和6年2月16日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均、市平均と比べて良好な結果である。 ○学校評価において、「学習内容の理解」に関する質問項目に肯定的な回答をした児童の割合は高く、分からないことについて自主的に教員に質問するなど学習意欲が高い。 <課題> ○授業における1人1端末の積極的かつ効果的な活用についての研究、実践を積み重ねる。 ○持続可能な教科担任制の在り方について、検証を続ける必要がある。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・「真の学力」の育成に向けた指導方法及び指導体制の確立	①全国学力・学習状況調査の結果分析に基づく授業改善を行う。 ②管理職による全教員を対象にした授業参観(ICTの活用等)を通して授業改善を行う。 ①教科担任制の研究を進める。大谷場中学校と連携し、効果的かつ持続可能な指導体制について、日々の実践を通して検証する。 ②異学年、中学校の生徒との交流を通し、非認知能力の育成を図る。	①全国学力・学習状況調査の平均正答率が昨年度から維持することができたか。(R4:国語74%、算数68%) ②「よい授業」アンケートの因子④(アクティブ・ラーニング)の平均値が向上したか。(R4.12月:17.6) ①研究紀要として研究の成果と課題をまとめることができたか。 ②学校評価における「学習内容の理解」の『そう思う』の回答率が向上したか。(R4:児童72%、保護者40%)	・全国学力・学習状況調査は、昨年度以上の結果であった。市教委から指導者を招聘した研修会の他にも校内で本校の課題解決に向けて研修会を持ち、来年度につなげることができた。 ・教員一人につき一回以上、ICTを活用した授業を公開、管理職による指導助言を行った。また、公開授業を相互に参観し合うことで授業改善につなげることができた。 ・一部教科担任制は4年生にも広げるなど、校内でも実践を進めることができた。大谷場中学校と連携を図り、研究の成果と課題を紀要にまとめ小・中一貫教育の研究発表会を開催することができた。 ・学校評価における「学習内容の理解」の『そう思う』の回答率が現状維持程度であった。(R5:児童66%、保護者41%)	A	・全国学力・学習状況調査結果については、単年での結果に留まらず、経年的な視点を持ち、本校児童の学習や生活に関わる傾向を捉え、改善方策を検討し、学力向上に向けて取り組みをしていく。 ・引き続き、授業においてICTを積極的に活用するとともに、効果的な活用方法について教員間で情報共有する。 ・高学年教科担任制を継続して実施するとともに課題について検討し、教科担任制の効果的な在り方等について研究を進めていく。 ・学習状況調査では一定の結果を得られているが、児童にとって実感を伴う真の学力を身に付けさせることが課題であり、引き続き工夫して指導していく必要がある。	・教科担任制やICTを活用した授業などが児童の学力向上により効果をもたらしている。 ・中学校との合同研修を行うことで、小・中の連携が一層進み、より質の高い授業が実現できることを期待している。
2	<現状> ○「いじめ防止に向けた取組やいじめ等に対して対応を行っている。」の項目で91%、「困ったことや心配なことを相談できる体制になっている。」の項目で96%と保護者の信頼を得られている。 ○安全点検は計画通り実施できている。安心することなく着実に継続する必要がある。 <課題> ○児童の問題行動、いじめ、不登校等に対し、より効果的にかかわる必要を感じる。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全・安心な環境づくりと安全に関する指導の充実	①生徒指導・教育相談部会の行い方(頻度、協議内容等)を見直し、問題行動、いじめ、不登校等に対し、より効果的に関わることでできる体制を作る。 ②サンキッズ相談日(教育相談の日)を定期的実施する。必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも情報共有し、適切な支援方法を探る。 ①安全管理(けが発生時の対応、不審者への備え等)を徹底するとともに、適宜、児童への安全に関する指導を行う。 ②安全点検を毎月1回実施する際、破損個所だけでなく死角になる部分やケガに繋がる恐れのある個所を確認し、迅速に修繕や環境の改善を行う。	①学校評価における「いじめ防止」の項目で『そう思う』の割合を維持できたか。(R4:保護者28.3%) ②学校評価における「相談体制」の項目で『そう思う』の割合を維持できたか。(R4:児童55%、保護者42%) ②サンキッズ相談での面談内容が、管理職及び関係職員に確実に共有されたか。 ①②学校評価における「安全への配慮」の『そう思う』保護者の回答率が向上したか。(R4:47%)	・生徒指導・教育相談部会を毎月1回開催し、児童一人ひとりの状況を校内で共有することで、職員が共通認識をもって児童の指導や支援に当たることができた。また、各種アンケートにおいて、心配される回答をした児童と担任が速やかに面談を行い、校内で情報共有を図った。緊急を要する場合にはその日のうちにケース会議を行い、すぐに対応することができた。(いじめ防止への肯定的回答R5:39%) ・児童や保護者とのコミュニケーションを図る機会を計画的に設定し、相談内容等について、専門職とも情報共有し、支援体制を整えることができた。 ・校内でのケガが発生した際は、状況の把握を把握し、首から上のケガについては保護者に速やかに連絡した。また、事案が発生した際には、職員集会等において全職員で情報共有し、職員の安全管理等の意識の向上、管理体制の再確認、児童への生活指導の徹底を図るなど予防に努めた。 ・毎月1回の安全点検を確実にを行い、破損個所や危険個所の早期発見及び速やかな修繕を行い、児童のケガ防止に努めることができた。	A	・いじめの早期発見や不登校児童への適切な関わりができるように、生徒指導・教育相談部会での協議項目、内容等を充実させる。また、3日以上欠席した児童については情報を共有し、必要に応じて対応を協議する。 ・サンキッズ相談日の月一回実施を継続するとともに、必要に応じて市教委や外部機関と連携し、児童への適切な支援方法等について教職員の資質向上に努める。 ・施設・設備の老朽化している場所や盲点となる場所等を再確認し、市教委に相談しながら、一つ一つ具体的な改善を行っていく。 ・安全点検が形骸化することがないように、定期的に注意喚起を行い、教職員の施設・設備の安全意識を向上させるとともに、よりよい学校環境づくりに努める。	・児童や保護者に寄り添った相談体制ができている。校内での対応もとてもよい。 ・昨年度から懸案となっていたアリーナの緩やかな修繕が卒業式に間に合うようであった。児童にとってよりよい環境となるよう引き続き施設・設備の安全管理を行ってほしい。
3	<現状> ○「あいさつができること」は学校・保護者・地域共通の願いである。児童に定着しつつあるあいさつを習慣化するまで、あと一歩である。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、様々な工夫をしながら平常時に近い形で学校行事等を実施することができた。 <課題> ○学校の教育活動や児童の様子などを参観する機会を設けるとともに学校ホームページ等を活用して双方向的なコミュニケーションが取れるような工夫を検討する。	・目指す児童の姿の地域全体での共有 ・学校行事の公開や参観の機会の充実	①学校ホームページのリニューアルに際し、内容や使い方を見直し、発信する情報を増やす。 ②あいさつを習慣化するため、児童によるあいさつ運動(生徒会との合同も含む)、教職員による登校時の立哨指導等を行う。 ①学校行事等の公開については、感染症対策を講じつつ公開の機会を拡大し、児童の活動の様子をより多く見ていただけるようにする。	①学校評価における「家庭・地域等との連携」の『そう思う』の回答率が向上したか。(R4:47%) ②学校評価における「あいさつ」の『そう思う』の回答率が向上したか。(R4:児童64%、保護者等35%) ①学校評価における「学校行事」の『そう思う』の回答率が昨年度より向上したか。(R4:51%)	・学校ホームページのリニューアルに伴い、見やすいホームページとすることができた。 ・あいさつについては、学校運営協議会での熟議をもとに学校・地域・家庭でそれぞれ取組を行った。学校ではあいさつ運動などの取組をした結果、自分からあいさつができたと感じる児童が増加した。(R5:児童66%、保護者等42%) ・運動会や音楽フェスティバルなど学校行事のあり方を検討し、参観人数を増やしたり、時間を長くしたりすることができた。保護者にも一定の評価をいただいた。(R5:63%) ・5年生の総合学習では、地域の民生委員さんの御協力を得て、「人にやさしい町へ」の学習を深めることができた。	A	・令和6年度から保護者用にアプリを導入する予定なので、学校ホームページは地域の方に向けたより分かりやすい発信の場となるよう工夫する。 ・気持ちのよいあいさつが交わされる学校を目指して、さらに実感をもったあいさつとなるよう大人が率先してあいさつを行う環境づくりをする。 ・学校行事等については、保護者に児童の様子を捉えらる機会を教育効果や業務負担等の様々な視点から精査や見直しを行うことで、これまで以上に質の高い教育活動を実現していく。 ・、地域人材にも御協力を得て、より地域と連携した学校運営を行っていく。	・お手紙配信アプリやスクールダッシュボードの導入は非常によい。しかし、導入によって、教員の負担過多にならないよう気を付けてほしい。 ・自分からあいさつできる児童はさらに増えてきている。大人が率先して取り組むことが大切だと感じる。
4	<現状> ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストを中心に研修及び情報共有を重ねており、全ての教員が、ICTを積極的に活用した授業を日常的に実施している。 ○市教委から「小・中一貫教育」の研究委嘱を受け、今年度が発表の年となる。大谷場中学校と連携し、よりよい教科担任制の在り方について模索している。 <課題> ○次年度以降の本校の教育活動に生かすことができる研究、研修を推進していく。	・資質向上に向けた教職員研修の充実	①エバンジェリストを核として、教職員の情報機器活用能力を向上する研修を実施する。 ②小・中合同で授業力向上に係る校内研修や相互に参観する授業公開期間を設け実施する。	①エバンジェリストを中心に情報機器活用研修会を年4回以上実施したか。 ②「小・中一貫教育」の充実に向けた小・中合同研修会が年3回以上実施されたか。	・エバンジェリストが中心となり、情報機器活用の研修会を各学期2回以上実施するとともに有志によるICT勉強会の実施、ICT活用についての提案などを通じて、教職員の情報機器活用能力が向上する機会を設定することができた。 ・全教員を対象とした小・中合同研修会以外にも、両校の推進委員による打合せや担当者会議などを実施し、中学校と密に連携を図ることができた。市教委より委嘱を受けた「小・中一貫教育」の発表も無事オンライン開催することができた。	A	・エバンジェリストだけでなく他の教員も活用能力を向上できるようにICT活用研修会等を継続していく。 ・市教委より委嘱を受けた「小・中一貫教育」の研修は終わりの年であるが、これまで蓄積してきた研究を生かしてよりよい教科担任制の在り方を検討していく。	・教職員はとてもよく頑張っているように感じる。一部フレックスタイムの導入をすることによって、教職員が働きやすかつ児童の安全安心につながるような工夫を検討してほしい。